
作文

麻都華

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

作文

【著者名】

麻都華

【ISBN】

N5422D

【あらすじ】

小学生の勇気は学校である宿題を出された。それは作文……

学校で宿題が出た。作文だ。僕はそんなに文章書くことが嫌いじゃない。でも、今回の課題は「父と母」。このテーマはいつも僕を悩ませる。

だけど、やがて宿題は終わらない。とりあえず僕は鉛筆をとつた。

「父と母」

6年2組 渡辺勇氣

僕の家族はごく一般的な普通の家族です。だから、家族の事を作文にするのは難しいです。父はサラリーマン、母は専業主婦。父のプロポーズの言葉は『結婚してくれ』だったし、2人が出会ったのは大学のサークルでした。ハネムーンはハワイで、結婚してから二年が経ち、僕、勇気が生まれました。二人の間には僕のほかには子供は生まれず、僕は一人の愛を一身に受けて育ちました。

母は、優しく、学校から帰つてくる僕を笑顔で迎えます。母が洗濯した洋服はふかふかで暖かくて、母の作ったオムライスは宇宙一のおいしさです。ただ、母はこれまた宇宙一怖いんです。大きな声で怒鳴り、ずっと文句言いつばなしなので、口を挟むときもありません。

お父さんは、いつも無口で威厳があるのでとても声をかけられません。でも、お父さんがたまの休みに遊んでくれる時の笑顔が僕は大好きです。

普段は決して口にしないけど、一人が僕を生み育ってくれた事に心の中がありがとうって思っています。」

そこまでかいて僕は鉛筆を置いた。優等生、100点満点の作文だな。と思って目を閉じる。

いつの間にか眠気に襲われ椅子に座つたまま、僕は夢の中にいた。顔の見えない二人の男女が上から覗きこんで微笑んでいる。優しい笑顔はいつの間にか消え、僕は再び机の上に戻っていた。少しの間しか寝ていなければ、僕の目から涙が落ち、日は落ち始めていた。

「ゆうき——もう『飯出来るから降りてらっしゃ——』」
僕は階段の下に向かつて、宿題の途中だからちょっと待つと叫びかえして、涙に滲んだ原稿用紙をもう一度見た。

そしてその紙きれをぐちゃぐちゃにまるめてゴミ箱に投げ入れた。あいにく、ゴミ箱には入らなかつたが、僕は気にしなかつた。違う原稿用紙を出してきて、もう一度鉛筆をとつた。

「父と母

6年2組渡辺勇氣

僕の家はちょっと変わっています。というのも、僕には両親が2人ずついます。片方は生んでくれた両親であり、もう片方は僕を育ってくれた両親です。育ってくれた両親とは、母の姉である叔母とその旦那さんです。生んでくれた両親に会えないことはたまに寂しくなるけど、12年間育てくれた、2人の事を本当のお母さん・お父さんと思っています。

僕は生み、育ってくれた、4人の父・母に言つてもいつても足りないくらいありがとうございます。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5422d/>

作文

2010年10月10日14時58分発行